

2012.11.19~12.21

2013.1.7~1.31

於・龍谷大学深草学舎 バドマ館  
龍谷大学人間・科学・宗教  
オープン・リサーチ・センター

## 金子みすゞ いのちへのまなざし展

龍谷大学・鍋島直樹先生

●文部科学省の採択プロジェクト「死生観と超越」の企画展示が京都にて開催され、学生、研究者、一般の市民に広く無料で公開し、新聞・ラジオで取り上げられるなど大きな反響を呼びました。

この金子みすゞ展では、三つのテーマを掲げました。

一つ目は、JULA出版局のご協力により、金子みすゞさんの生涯と詩を、パネルと写真、実物資料とともに展示し、彼女の詩に流れる心の世界を感じていただきました。「私と小鳥と鈴と」「こだまでしょうか」「星とたんぼぼ」「大漁」「鯨法会」「お仏壇」などのみすゞさんの直筆パネルには学生たちが「わあ、みすゞさんの文字は優しい」と喜びました。特に、娘ふさえさんの母への想いを展示し、今もみすゞさんの言葉が力となって生きていることを学びました。

二つ目は、金子みすゞ記念館の矢崎節夫館長や草場陸弘主任をはじめとする方々が、ネパールの子どもたちのために金子みすゞ学校を創設し、市民のために医療キャンプを開設した足跡をパネルでたどりました。

三つ目は、中国四川省の大震災で被災した子どもたちがみすゞさんの詩を学ぶ様子や、東日本大震災に遭った東北の学校に、みすゞさんの詩集を届けてきた、金子みすゞ顕彰会の歩みをご紹介します。被災地で、みすゞさんの詩を読んだ子どもたちは、それぞれに生きる勇気や強さを感じています。その被災地

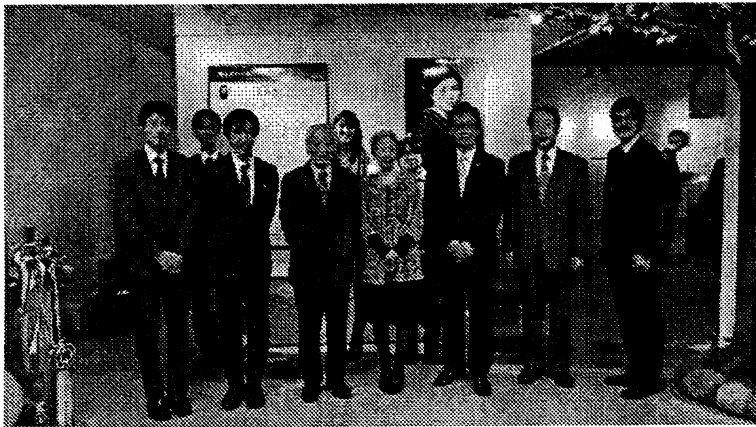
の子どもの手紙を見ると、心から応援したくなります。

龍谷大学人間・科学・宗教オープンリサーチセンターでは、東日本大震災の後、被災地に幾度も赴き、物資支援、炊き出し、海と大地に向っての追悼、傾聴、南三陸町と本学との共催、龍谷大学吹奏楽部演奏会、南三陸町役場での講演などをさせていただいています。

被災地のご遺族からは、「津波で家族や家を流されても、絆は流されない」「亡き人は教えとなって今も心に生きている」という言葉をいただきました。

「見えないものでもあるんだよ」のみすゞさんの言葉が、生きぬく光となって私たちを照らしています。

矢崎節夫先生の講演会には700名をこえる学生や市民が集まりました。矢崎先生から「みすゞさんの心が甦りました」というお便りをいただき、うれしかったです。



オープニングイベントにて